白川郷荻町集落の自然環境を守る会　令和5年8月号

ねそ

守る会ホームページ　http://shirakawa-go.com/~ogimachi/

発展会の取組が話題になりました！

ねそ令和5年5月号で紹介した荻町発展会（会長：藤坂俊幸氏）の取り組みが、村議会や守る会役員会で話題になり、岐阜新聞にも取り上げられました（下記に掲載）。

荻町区民の皆さまにおかれましては、日頃から地域の美化に努めていただいておりますが、引き続き「観光事業者は、ゴミのポイ捨てが増えないよう各自努力する」「店舗等周辺のゴミ拾いを積極的に行う」「観光客からゴミ処分の申し出があった際は、他店舗のゴミであっても“お互い様”の精神で快く引き取る」「タバコのポイ捨てによる火災がないよう見かけたら注意する」を心がけましょう。

6月には観光イベントで来村された観光客の方がゴミ拾いをしてくださると、組寄合で伝えられました。観光客と共にきれいな白川郷を守っていけたらいいですね。

2023年(令和5年)　7月16日(日)　社会

岐阜新聞　2023年（令和5年）7月16日 日曜日

白川郷、ごみに悩む

観光客が戻った合掌造り集落。食べ歩きを楽しむ人もいる＝9日、大野郡白川村荻町

新型コロナウイルス対策の緩和で観光客の戻った大野郡白川村荻町の合掌造り集落で、ごみのポイ捨てが問題になっている。集落に公共のごみ箱はなく、捨てられるのは食べ歩きの串や紙くず、たばこの吸い殻のほか、村外から持ち込まれたものも。観光事業者は各店での引き取りやごみ箱の設置を徹底する一方、村は集落に入るバス車内での回収を検討するなど、解決策を模索している。（安井真由子）

コロナ緩和後、観光客のポイ捨て増

「2月ごろはコロナ前よりひどい日もあった」。集落の飲食店や民宿などでつくる荻町発展会の藤坂俊幸会長（49）は、ごみの多さに顔をしかめる。

同村への観光客は、2019年に過去最高の215万人を記録。21年に42万人まで落ち込んだが、入国制限が緩和された昨秋から徐々に回復し、22年は77万人まで戻った。それに伴い、ポイ捨てをはじめとする観光客のマナー問題が再熱している。

年明け以降は集落に大勢の観光客が行き交い、道路や田んぼの脇にはポイ捨てが急増した。村にないコーヒーチェーン店の空カップが置かれていたり、使い捨てカイロやマスクが雪の中に埋めて隠されていたこともあった。藤坂会長は「犬の散歩ついでに拾うと、すぐに袋がいっぱいになった」と明かす。

発展会は2月、「このままでは住民も観光客も気持ちよく過ごせない」と会員に協力を求める文書を通知した。観光客が他店舗で買った食べ物のごみも〝お互いさま〟の精神で引き取ること、喫煙所外でたばこを吸う観光客を注意することなどをお願いし、ごみ袋を配って各店舗でのごみ箱設置や回収を呼びかけた。目立つ場所でのポイ捨ては落ち着いたものの、今でも捨てられたごみがたびたび目に付くという。

村は過去に、観光客用の駐車場にごみ箱を設置したこともあったが、団体バス1台分の弁当箱が捨てられるなど量の多さが問題となり、撤去した。村観光振興課の吉實秀典課長は「回収や分別、処分が追いつかなかった」と説明する。現在は集落の入り口であるバスターミナルでの回収や、バス車内で動画による啓発ができないか、バス会社と協議を進めている。吉實課長は「マナーを周知し、きれいな観光地づくりを進めたい」と話した。

店の前に設置されたごみ箱＝同

「各店で回収を」通知　村全体で解決模索

◆集落視察を実施しました･･･7月10日（月）夕刻、4年ぶりに集落視察を実施。最近の現状変更申請の審議のなかで時間を要した事案の要点を改めて現場で確認しました。紙面上では、イメージがしにくいことも多いので、日頃から現場を見ておくことで、今後の定例会における議論をスムーズに進めたり、深めていけたらと感じました。

◆「オオハンゴンソウ除去作業」今年も学生さんが多数参加！･･･7月8日（土）午前、守る会より委託を受けた白川郷観光協会青年部（部長：松山秀則氏）7名のメンバーを中心に、オオハンゴンソウの除去作業を実施。オオハンゴンソウは特定外来生物に指定され、別名『過疎花』とも呼ばれており、白川郷にふさわしくない日本の生態系を崩す植物として、守る会では除去に力を入れています。

今年も昨年同様、トヨタ白川郷自然學校が実施するプログラム『SDGs担い手育成講座』へ参加した学生やスタッフ等、総勢約 20名が加わる作業となりました。除去量は45リットルのゴミ袋約20袋。雨足が強まる時間帯も長く、過酷な作業でしたが、参加した学生たちは始終笑顔で仲間と協力をして作業をしてくださいました。その姿に励まされ、同じ目的に向かって力を合わせることの楽しさを、改めて実感できました。作業を通して次第に参加者同士の距離も縮まり、休憩時間には学生の方が関心を持つ話題や、守る会での活動等についてお話することができました。作業を終えた夜には交流の場が設けられ、それぞれに親交を深めました。また、後日再び村を訪ねてくださる学生の方もいらっしゃいました。

作業にご参加くださいました皆様に心より感謝申し上げます。［一般環境部］

守る会活動スローガン　～守る・暮らす・つなぐ～

①守　る：住民憲章を基盤とした、世界遺産である合掌家屋と農山村の景観保全
②暮らす：結の精神が根ざした共同体と、景観に調和した豊かな住民生活の向上
③つなぐ：故郷から学び、他地域の交流から学び、未来の継承者を育成

7月の活動報告　※9月の定例会は11日（月）を予定（公民館和室にて）

1日　センガ岩倉庫草刈り（役員有志）
6日　拡大役員会
6日　荻町構想計画会議（区長・役員・財団・教育委）
8日　オオハンゴンソウ除去作業（一般環境部）
10日　集落視察・定例会
11日　ねそ7月号発行（総務部）
13日 - 14日　自治保存会育成事業（視察研修）@飛騨高山
26日　かややね会議（事務局・財団・有志）
随時　旧寺口家草刈り（福田）

8月の協議事項（現状変更申請に関わって）　8月7日開催

申請 0 件